

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカルケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 織部		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191800040-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで家庭的なイメージのする家屋で、“笑顔あふれる和のホーム”をホームのテーマとしそれぞれのご入居様が笑顔で普通の生活ができるようにサポートしています。
 入居者様の笑顔の写真を居室入口に貼ることで、毎日笑顔で愛着を持って過ごして頂こうと取り組んでいる。
 フロアには常に貼り絵などで季節を感じて頂けるよう掲示物を作成し、ご家族への毎月のお便りは、個人へのお手紙と全入居様が写っている今月の活動報告新聞を、ご家族が笑顔になっていただけるように工夫をしている。近所の川沿いには毎年春になると桜の木が満開になる為、季節に合わせた外出の楽しみがある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナ禍により電話ヒアリングでの調査を実施した】
 感染症対策は利用者にも協力を得て、手洗い・うがいの徹底など、ホーム全体で取り組んでいる。外出は制限しているが、中庭を活用して屋外の活動を増やし、畑での収穫体験をしたり、桜や花火を見たりと、ありふれた日常の中にも刺激のある経験をすることで、利用者が少しでも楽しいと思える暮らしを提供している。
 今年度より管理者が交替し、新体制となっている。これまでの良さを活かしつつ、職員が「笑いは百薬の長である」ことを意識し、チーム一丸となって利用者支援に努めている。家族の不安を少しでも減らすために、日常の様子をこまめに報告し、安心してもらえよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時に運営理念を唱和し、常に意識付けをしている。 朝礼時には、職員が本日心がけて行うケアや試みを宣言することの継続	運営理念と共にホームのコンセプトを掲示し、職員は日常の支援に取り入れている。自分自身が楽しんでいないと利用者も楽しめない、という思いで支援しており、利用者の笑顔や笑い声に包まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり、来設して頂く回数は減ったが入居者様の散歩を通して、地域の人々へ挨拶を行っている	地域行事が中止となり、直接交流の機会は減っている。散歩の途中で近所の幼稚園に寄り、外で遊んでいる園児に手を振る等の交流は継続している。地域の一員として、近くの喫茶店にコーヒーを飲みに行く。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の理解をして頂ける様に運営推進委員会などで民生委員等への情報発信を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考にしている	感染予防のため、書面での開催を継続している。会議の資料を送り、電話等で意見を聞き、運営に反映させている。今後については、市と相談しながら、対面開催を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の高齢介護課を定期的に訪れる	不明点などはその都度、電話や市役所に出向いて相談している。市の担当者も出席しているサービス事業者連絡会で意見交換を行っており、市とは良い関係性を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施にて職員の意識を強めている。 身体拘束廃止委員会を設け、定期的に話し合いを行っている	不適切ケアのチェックシートの結果を委員会で検討し、研修や朝礼などで振り返っている。管理者も現場での業務を行っており、気になることがあれば面談等で注意喚起し、職員自身に気づいてもらう機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の虐待チェック。職員同士で援助方法の確認		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが現在も必要性があると思われるご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により十分な時間をとり説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙とともにご家族からのご意見をいただく用紙を送付している	家族アンケートで出された意見を職員で共有し、改善に努めている。家族と会う機会が減っているため、毎月の手紙に写真を添え、日常の様子が伝わりやすいよう努めている。	アンケート以外でも、家族が気軽に意見を言えるよう、利用者の様子の伝え方を工夫し、これまで以上に良い関係性を築いていくことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議や日々の業務時に時間を設けている	職員からは、積極的に改善提案が挙がってくる。管理者はそれを否定せず、まずは試しにやってみて、その結果が良くなければ原因を追究し、さらなる改善に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週5分～10分程度時間話し合う場を設け、職員の状況を確認しており、相談を頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近年はZOOMを使用し、交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎月利用者のニーズを把握し、目標を立て日々実現できるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、アセスメント時には傾聴に努め安心していただけるよいな対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、入居時に本人、家族と話す時間を多く掛けてニーズをしっかりと捉えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事活動や畑仕事を一緒にする事により生活を共にしている関係性を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事故等が起きた際、場合によってはどのような対策支援が必要か家族と話し合い、職員と共に支援して頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物によく行ったお店をお聞きし、一緒に出掛けられるようにしている	馴染みの関係が薄れつつあるが、近所の馴染みの喫茶店でのティータイムを楽しみにしている。コロナ禍が明けたら出かけてみたい場所を皆で話しながら、その時が来るのを待っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく利用者全体的に参加できるようなレクリエーションを提供。午前午後に体操を行う時間を設ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご連絡を頂いた際は相談に応じる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどういった生活を送りたいのか聞き取りを行い、それを毎月実行に移せたかどうかの目標表作成している	利用者が実現したいことを「目標表」として掲示し、それを達成したときの充実感を利用者 に味わってもらっている。目標は日常の関わりの中から汲み取り、利用者毎に設定している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された際の聞き取り以外にも、生活を送る上で必要なものがあれば、そのときに応じて生活環境の見直しを図る		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察をし、ご自宅で過ごされていた時と同じように過ごしていただきケアプランに挙げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議の前に課題や思いをまとめ、会議で話し合うようにした計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている	家族からは、「運動を取り入れて欲しい」という意見が多く、レクリエーション活動等で実現できるよう介護計画に反映させている。医師や看護師の意見も聞きながら、より良い支援に繋がられるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、スマートフォンに日々の様子を記録に残しつつでも情報を共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われない外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゴミ捨てを行ったり中庭の畑で野菜を育てたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	集団往診と個人往診の際に、職員・利用者・主治医を交え現在の状況を伝え必要に応じた医療を受けられている	かかりつけ医は、利用者の希望に沿って決めている。協力医は訪問看護と連携しており、24時間適切な医療が受けられる体制となっている。かかりつけ薬局の薬剤師に、薬の相談をすることができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連絡ノートを活用し、必要があれば電話で随時報告している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院関係者に連絡をし情報をいただき、退院に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。職員は社内研修を毎年行い、重度化になった場合にも全員が対応できるようにし、医療機関との連携も深めている	看取りを希望する家族が多く、状態に変化があった時には家族、医師、職員で話し合い、今後の支援の方向性を決めている。看取り期に入る時には、職員が支援方針を共有し、利用者にとってより良い最期を迎えられるようチームで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、スタッフも一部普通救命講習の研修に参加し実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は消防訓練を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し、災害時には協力をお願いしている	避難訓練には利用者も参加し、消火器を使った訓練も取り入れている。ホームが被災し、避難した際には、地域の人に、「見守りをしてもらいたい」という意向を伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、居室へ伺う際はプライバシーを損ねないよう戸を必ずノックする	利用者一人ひとりを尊重し、目線を合わせて話し、声掛けのトーンや敬語の使い分けなど、状況に合わせて対応している。居室や入浴時のプライベート空間に立ち入る時は、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい・いいえで答えられる質問でなく、意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事前に入浴時間を確認し、ご入居者様の希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は櫛や化粧水を使用し、身だしなみを整えて頂くように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、食事の盛り付け、お茶の用意などできる事は一緒にやっていただいている	法人本部で作成される栄養バランスのとれた献立を基に、利用者の好みや地元の味を取り入れてアレンジしている。おやつ作りなどには利用者も積極的に参加し、作る楽しみも味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床後すぐにプロテイン飲料を飲む、寒天ゼリーを食べる等それぞれの習慣が継続できるようにしている。栄養士と相談し、食事量を調節		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い実行し、磨きの残しが無いか再度チェックしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し、パッドを外すことができた方や布パンツへ移行された方がいる	カルテに記録した排泄状況を分析し、適切な排泄用品を検討している。適切に誘導することで、トイレに頻繁に行くことを気にして水分を摂らなくなることを防ぎ、排泄の自立にも繋がり、利用者の自信にもなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は午前午後にヨーグルトを提供したり、ご本人の好まれる飲物を多めに提供し摂取して頂けるように工夫をしている。また、フェカリス菌を導入している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。入浴回数を増やしたいという希望の入居者様は回数を増やし対応している	週2、3回の入浴機会があり、もっと入りたい利用者には、可能な限り対応している。拒否のある利用者には、声掛けのタイミングを考慮し、入りたいと思える環境を整え、自然と浴室に足が向くように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察し、昼夜逆転を防ぐとともに、日中の休息方法や居室の環境を検討し実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されている。服薬事故の無いようマニュアルに沿って服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の準備や洗い物を役割としてやっていただいている。ゴミ捨てに外まで付き添って頂いたついでに、散歩に出かける		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や駐車場、施設周りを散歩する機会がある	日常的な近隣の散歩や中庭を活用した活動など、屋外に出る機会を増やしている。買い物などの人の多いところへの外出は控えているが、家族外出は認めており、家族との外出・外食を楽しんでいる利用者がいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている ZOOMにて連絡を取り合う方もみえる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	額縁の中の絵を毎月変更したり、季節を感じることでできる物を用意し一緒に作って楽しんだりしている	電話ヒアリングのため、見学なし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスに席を設け共用できる居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までご本人が使ってみえた馴染みのタンスや椅子などの道具を持ち込んでいただいている	電話ヒアリングのため、見学なし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真を付け、分かりやすくしている。フロア入り口には職員の顔写真を貼り、入居者様にどの職員がいるか分かるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191800040		
法人名	メディカルケアサービス東海株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム土岐河合 志野		
所在地	岐阜県土岐市泉町河合560-2		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年4月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2191800040-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	岐阜県関市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	令和5年2月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで家庭的なイメージのする家屋で、“笑顔あふれる和のホーム”をホームのテーマとしそれぞれのご入居者様が笑顔で普通の生活ができるようにサポートしています。
 入居者様の笑顔の写真を居室入口に貼ることで、毎日笑顔で愛着を持って過ごして頂こうと取り組んでいる。
 フロアには常に貼り絵などで季節を感じて頂けるよう掲示物を作成し、ご家族への毎月のお便りは、個人へのお手紙と全入居者様が写っている今月の活動報告新聞を、ご家族が笑顔になっていただけるように工夫をしている。近所の川沿いには毎年春になると桜の木が満開になる為、季節に合わせた外出の楽しみがある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲示し、朝夕礼時に運営理念を唱和し、常に意識付けをしている。 朝礼時には、職員が本日心がけて行うケアや試みを宣言することの継続		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍もあり、来設して頂く回数は減ったが入居者様の散歩を通して、地域の人々へ挨拶を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の理解をして頂ける様に運営推進委員会などで民生委員等への情報発信を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回状況や事故の報告をして意見を募り参考にしている。自立支援ケアが始まりそこでの効果も報告している		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の高齢介護課を定期的に訪れる		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修と2か月毎の身体拘束チェックシートの実施にて職員の意識を強めている。 身体拘束廃止委員会を設け、定期的に話し合いを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に一度の研修と2か月毎の虐待チェック。職員同士で援助方法の確認		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学んだが今のところ必要性があると思われるご入居者様はいない。運営推進会議などで地域包括センターの社会福祉士の方へ確認や相談を行って意見を頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者により十分な時間をとっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年ご家族様アンケートを実施し、結果改善点等をご家族・職員にお知らせし、玄関に掲示している。三ヶ月に一度、お手紙とともにご家族からのご意見をいただく用紙を送付している		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ホーム会議、ユニット会議や日々の業務時に時間を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎週5分～10分程度時間話し合う場を設け、職員の状況を確認しており、相談を頂いている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修システムで全社員に活用できる環境を整えパソコンやスマートフォンで何時でも研修を受けることができる。また社外においては研修案内や受講を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近年はZOOMを使用し、交流の機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎月利用者のニーズを把握し、目標を立て日々実現できるよう取り組んでいる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時、アセスメント時には傾聴に努め安心していただけるような対応を心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時、入居時に本人、家族と話す時間を多く掛けてニーズをしっかりと捉えるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の家事活動や畑仕事を一緒にする事により生活を共にしている関係性を作っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事故等が起きた際、場合によってはどのような対策支援が必要か家族と話し合い、職員と共に支援して頂く		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物によく行ったお店をお聞きし、一緒に出掛けられるようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく利用者全体的に参加できるようなレクリエーションを提供。午前午後には体操を行う時間を設ける		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご連絡を頂いた際は相談に応じる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がどういった生活を送りたいのか聞き取りを行い、それを毎月実行に移せたかどうかの目標表作成している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居された際の聞き取り以外にも、生活を送る上で必要なものがあれば、そのときに応じて生活環境の見直しを図る		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々観察、検討している ケアプランに挙げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者担当者がユニット会議で課題が思いをまとめ、話し合うようにした。 計画担当者はそれも参考に介護計画の作成をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、スマートフォンに日々の様子を記録に残しつつも情報を共有できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内サービスに捉われない外部の医療機関や施設との交流や支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ゴミ捨てを行ったり中庭の畑で野菜を育てたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	集団往診と個人往診の際に、職員・利用者・主治医を交え現在の状況を伝え必要に応じた医療を受けられている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との連絡ノートを活用し、必要があれば電話にて報告		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前に病院関係者に連絡をし情報をいただき、退院に備えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の対応指針、看取り介護にかかる指針を説明し、同意を得ている。また、社内研修も毎年行い、医療機関からの支援もいただいている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習を自ら実施できる様、救命救急講習に参加すると共に、スタッフも一部普通救命講習の研修に参加し実施している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回は消防訓練を行い、自治会へは運営推進会議で状況を説明し、災害時には協力をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時、居室へ伺う際はプライバシーを損ねないよう戸を必ずノックする		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	はい・いいえで答えられる質問でなく、意思決定を促すために質問で答えて頂くなど言葉掛けなどに工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事前に入浴時間を確認し、ご入居者様の希望に沿うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後は櫛や化粧水を使用し、身だしなみを整えて頂くように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食時の卵を割る、副菜の盛り付け、コップ洗い等、できる事は一緒にやっていただいている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士と相談し、食事量を調節し提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	主に声掛けを行い、必要があれば援助にて口腔ケアを実行してもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員同士で、利用者の夜間等の排泄パターンを共有しあい、失禁が減りリハパンから布パンツに移行できる		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	頓服の下剤にばかり頼らず、水分提供を促したり、オリゴ糖を飲み物に混ぜて提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングをご入居者様の気持ちに合わせて早めたり遅らせたりしている。また入浴剤などを利用して入浴した時の満足度を上げるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子や夜間の睡眠状態を観察して日中の休息方法や居室の環境を検討し実施している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書がいつも見ることのできる所に保管されている。服薬事故の無いようマニュアルに沿って服薬支援をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の食事の準備や洗い物を役割としてやっていただいている。ゴミ捨てに外まで付き添って頂いたついでに、散歩に出かける		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や駐車場、施設周りを散歩する機会がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じてご本人が使えるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望でホームから家族、知人へ電話をしてもらっている ZOOMにて連絡を取り合う方もみえる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	額縁の中の絵を毎月変更したり、季節を感じることでできる物を用意し一緒に作って楽しんだりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭のテラスに席を設け共用できる居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今までご本人が使ってみえた馴染みのダンスや椅子などの道具を持ち込んでいただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には顔写真を付け、分かりやすくしている。フロア入り口には職員の顔写真を貼り、入居者様にどの職員がいるか分かる様にしている		